

## 1996年(平成8年)阿嘉島臨海研究所の1年間の動き

### 主な利用者と研究課題等

- 1月 「サンゴ礁海域におけるベントスの定量評価に関する研究」 岩尾研二ほか(阿嘉島臨海研究所)が、海洋科学技術センター 石垣島調査に参加(11月にも実施)
- 2月 座間味村産業祭りで阿嘉島臨海研究所の活動内容を展示紹介
- 3月 「サンゴ礁の赤土汚染調査」 上原睦男ほか(沖縄環境保全研究所)(10月にも実施)  
「視察会」 C. N. Eakin (NOAA), R. W. Grigg (Univ. Hawaii), T. Hughes (James Cook Univ.), J. W. McManus (ICLARM), A. W. Szmant (Univ. Miami)らの著名なサンゴ礁研究者たち  
「海綿由来生理活性物質の探索」 梅澤一夫(慶応義塾大学)(8月にも実施)
- 4月 「南西諸島の地下水に分布する小型甲殻類の系統分類学および群集生態学」 Ronald Vonk (Univ. Amsterdam): 短期S T Aフェローシップ研究者  
「造礁サンゴ幼生の着生機構に関する研究」 Aileen N. C. Morse (カリフォルニア大学サンタバーバラ校): 阿嘉島臨海研究所との共同研究(5~6月にも実施)
- 5月 「ミドリイシ属サンゴの異種間交配実験」 服田昌之(国立遺伝学研究所)、深見裕伸ほか(東京水産大学): 阿嘉島臨海研究所との共同研究(~6月)  
阿嘉小学校の児童を対象に、サンゴについての特別授業を実施(6・10月にも実施)
- 6月 「サンゴ礁における炭素循環についての研究」 山田興一ほか(東京大学)、大森保(琉球大学)(7・12月にも実施)  
「阿嘉島におけるサンゴ食貝(シロレイシガイダマシとヒメシロレイシガイダマシ)の成長と成熟および棲息状況について」 下池和幸が、第8回国際サンゴ礁シンポジウム(パナマ)で発表
- 7月 「アサトカラスヤンマの生態調査」 鹿野(麻布大学)  
「海洋微生物が生産する生理活性物質の構造と機能に関する研究」 波越通夫ほか(東京水産大学)、小林久芳(東京大学)、小玉健太郎ほか(三共(株)筑波研究所)(11月にも実施)
- 「ケラマジカの生態学的研究」 當間順一ほか(琉球大学)(9~10月にも実施)  
「サンゴ礁のモニタリング調査」 R. van Woelikほか(琉球大学)(10・11月にも実施)  
「サンゴ礁における生物浸食量の測定」 日比野浩平(琉球大学)(10・12月にも実施)  
「サンゴの色彩形成に関する研究」 高林美咲(シドニー大学)
- 8月 「ギボシムシ類の分布と分類に関する研究」 西川輝昭(名古屋大学)  
「造礁サンゴの有性生殖に関する研究」 林原毅(水産庁西海区水研)  
「沖縄の海岸線の自然度調査」 大見謝星斗(那覇中学校)  
「衛生画像データに基づいたサンゴ礁モニタリングシステムの開発」 灘岡和夫ほか(東京工業大学)、大見謝辰夫(沖縄県衛生環境研究所)  
「屋嘉比島の動物相を中心とした調査」 ウミガメ類の産卵調査: 平手康市(沖縄県水産業改良普及所)・菊川章(琉球大学)ほか。アカマタによるウミガメ幼体の捕食行動調査: 森哲(京都大学)。貝類の分布調査: 久保弘文(沖縄県栽培漁業センター)

- 9月 「サンゴモ類の分類と生態に関する研究」 馬場将輔 ((財)海洋生物環境研究所)
- 10月 「海産無脊椎動物からの新規有用物質の探索」 田村亮ほか ((株)海洋バイオテクノロジー研究所)  
「南西日本におけるアオリイカ3型の生活史」 井塚隆 (東京水産大学)  
「屋嘉比島のヤギ類分布調査」 岩瀬文人 (八重山海中公園研究所)  
「ハナヤサイサンゴ類とチョウチヨウオ類の多様性の研究」 M. Adjeroud, C. Laurence (琉球大学)  
沖縄タイムスに「サンゴ礁との共存」を連載 (~11月)
- 11月 「オニヒトデ稚仔の分布調査」 横地洋之 (東海大学)
- 12月 「阿嘉島周辺海域軟体動物相調査」 土屋光太郎ほか (東京水産大学) 河西伸治 (千葉県水産課)

### その他の主な来訪者

林光夫、日馬康雄、B. Barker、Y. D. Soo (科学技術庁科学技術政策研究所) 小林淳一 (北海道大学)  
山野博哉 (東京大学) 西谷望、田中則男ほか ((株)テトラ) 山本秀一ほか ((株)エコー) 野澤徹  
(都立九段高校)

### AMSL 刊行物

「みどりいし」No.7、「アムスルだより」Nos.17~22、  
AMSL パンフレットシリーズ No.1「サンゴの誕生」

### 共著論文

Morse, A.N.C., K. Iwao, M. Baba, K. Shimoike, T. Hayashibara, and M. Omori 1996. An ancient chemosensory mechanism brings new life to coral reefs. *Biological Bulletin*, 191, 149-154.

Fukami, A., Y. Ikeda, S. Kondo, H. Nagasawa, T. Takeuchi, S. Furuya, Y. Hirabayashi, K. Shimoike, S. Hosaka, Y. Watanabe, and K. Umezawa (in press). Akaterpin, a novel bioactive triterpene from the marine sponge *Callispongia* sp. *Biochemical and Biophysical Research Communications*.



「視察会」1996年3月8日、AMSL 会議室にて